

様式第28号(第2条関係)

医療法人事業報告書等届

令和5年10月23日

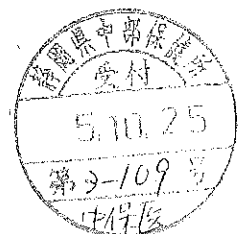
(宛先) 静岡県知事 川勝平太 様

医療法人の名称	医療法人社団 片岡医院
主たる事務所の所在地	静岡県島田市本通七丁目1番地の5
代表者の氏名	理事長 片岡 英

令和4年度、第32期の決算を終了したので、医療法第52条第1項の規定により届け出ます。

提出書類

- 1 事業報告書
- 2 財産目録
- 3 貸借対照表
- 4 損益計算書
- 5 関係事業者との取引の状況に関する報告書
- 6 監事の監査報告書



様式 1

(自 令和4年8月1日 至 令和5年7月31日)

(1) 名 称 医療法人社団 片岡医院

- ① ☐ 財団 ☒ 社団 ( ☐ 出資持分なし ☒ 出資持分あり )  
 ② ☐ 社会医療法人 ☐ 特別医療法人 ☐ 特定医療法人  
☐ 出資額限度法人 ☒ その他  
 ③ ☐ 基金制度採用 ☒ 基金制度不採用

注) ①から③のそれぞれの項目(③は社団のみ。)について、該当する欄の□を塗りつぶすこと。(会計年度内に変更があった場合は変更後。)

- (2) 事務所の所在地 静岡県島田市本通七丁目7787番地の5

注) 複数の事務所を有する場合は、主たる事務所と従たる事務所を記載すること

- (3) 設立認可年月日 平成4年7月10日

- (4) 設立登記年月日 平成4年7月27日

- (5) 役員及び評議員

[illegible]

- 注) 1. 社会医療法人、特別医療法人及び特定医療法人以外の医療法人は、記載しなくても差し支えないこと。
2. 理事の備考欄に、当該医療法人の開設する病院、診療所又は介護老人保健施設（医療法第42条の指定管理者として管理する病院等を含む。）の管理者であることを記載すること。（医療法第47条第1項参照）
3. 評議員の備考欄に、評議員の選任理由を記載すること。（医療法第49条の4参照）

## 2 事業の概要

(1) 本来業務（開設する病院、診療所又は介護老人保健施設（医療法第42条の指定管理者として管理する病院等を含む。）の業務）

種 類	施設の名称	開 設 場 所	許可病床数
病 院			
診療所	片岡医院	静岡県島田市本通七丁目7787番地の5	一般病床 0 床 療養病床 0 床 [医療保険 0 床] [介護保険 0 床]
介護老人 保健施設			

- 注) 1. 地方自治法第244条の2第3項に規定する指定管理者として管理する施設については、その旨を施設の名称の下に【 】書で記載すること。
2. 療養病床に介護保険適用病床がある場合は、医療保険適用病床と介護保険適用病床のそれぞれについて内訳を【 】書で記載すること。
3. 介護老人保健施設の許可病床数の欄は、入所定員及び通所定員を記載すること。

(2) 附帯業務（医療法人が行う医療法第42条各号に掲げる業務）

種類又は事業名	実 施 場 所	備 考

- 注) 地方公共団体から委託を受けて管理する施設については、その旨を施設の名称の下に【 】書で記載すること。

(3) 収益業務（社会医療法人又は特別医療法人が行うことができる業務）

種 類	実 施 場 所	備 考

(4) 当該会計年度内に社員総会又は評議員会で議決又は同意した事項

令和4年9月20日	令和3年度決算の決定
令和4年11月10日	出資金贈与
令和5年7月31日	令和5年度の事業計画及び収支予算の決定
令和5年7月31日	令和5年度の借入金額の最高限度額の決定
令和5年7月31日	理事、監事の選任の承認及び報酬額の決定

注) 以下については、病院又は介護老人保健施設を開設する医療法人が記載し、診療所のみを開設する医療法人は記載しなくても差し支えないこと。

(5) 当該会計年度内に開設（許可を含む）した主要な施設

(6) 当該会計年度内に他の法律、通知等において指定された内容

(7) その他

注) 当該会計年度内に行われた工事、医療機器の購入又はリース契約、診療科の新設又は廃止等を記載する。（任意）

## 様式 2

法人名 医療法人社団 片岡医院

※医療法人整理番号

所在地 静岡県島田市本通七丁目7787番地の5

## 財 産 目 録

( 令和5年7月31日現在 )

1. 資 産 額	370,188 千円
2. 負 債 額	176,441 千円
3. 純 資 産 額	193,746 千円

(内 訳)

(単位：千円)

区 分	金 額
A 流 動 資 産	97,279
B 固 定 資 産	272,908
C 資 産 合 計 (A+B)	370,188
D 負 債 合 計	176,441
E 純 資 産 (C-D)	193,746

(注) 財産目録の価額は、貸借対照表の価額と一致すること。

土地及び建物について、該当する欄の□を塗りつぶすこと。

土 地 ( ■ 法人所有 □ 賃借 □ 部分的に法人所有 (部分的に賃借) )

建 物 ( ■ 法人所有 □ 賃借 □ 部分的に法人所有 (部分的に賃借) )

法人名 医療法人社団 片岡医院

※医療法人整理番号

所在地 静岡県島田市本通七丁目7787番地の5

## 貸借対照表

(令和5年7月31日現在)

(単位:千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 流動資産	97,279	I 流動負債	22,939
II 固定資産	272,908	II 固定負債	153,501
1 有形固定資産	140,448	負債合計	176,441
2 無形固定資産	0	純資産の部	
3 その他の資産	132,460	科 目	金 額
		I 出資金	5,000
		II 積立金	188,746
		III 評価・換算差額等	0
		純資産合計	193,746
資産合計	370,188	負債・純資産合計	370,188

(注) 経過措置医療法人は、純資産の部の基金の科目の代わりに出資金とするとともに、代替基金の科目を削除すること。

法人名 医療法人社団 片岡医院  
所在地 静岡県島田市本通七丁目7787番地の5

※医療法人整理番号

損 益 計 算 書  
(自 令和4年8月1日 至 令和5年7月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額
I 事業損益	
A 本来業務事業損益	
1 事業収益	184,961
2 事業費用	132,317
本来業務事業利益	52,644
B 附帯業務事業損益	
1 事業収益	0
2 事業費用	0
附帯業務事業利益	0
事業利益	52,644
II 事業外収益	1,593
III 事業外費用	4,100
経常利益	50,136
IV 特別利益	0
V 特別損失	0
税引前当期純利益	50,136
法人税等	12,549
当期純利益	37,587

(注) 1. 利益がマイナスとなる場合には、「利益」を「損失」と表示すること。  
2. 表中の科目について、不要な科目は削除しても差し支えないこと。

法人名 医療法人社団 片岡医院  
 所在地 静岡県島田市本通七丁目7787番地の5

※医療法人整理番号

## 関係事業者との取引の状況に関する報告書

### (1) 法人である関係事業者

種類	名称	所在地	資産 総額 (千円)	事業の 内容	関係事 業者と の関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

### (2) 個人である関係事業者

種類	氏名	職業	関係事 業者と の関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
役員	片岡 英樹	医師	当法人 理事長	金銭の 借入	-7178	役員等 借入金	15,722
役員	片岡 静香	医師	当法人 理事	金銭の 借入	490	役員等 借入金	19,094
役員	片岡 ひろみ	事務員	当法人 理事	金銭の 借入	0	役員等 借入金	19,988

(取引条件及び取引条件の決定方針等)



## 監 事 監 査 報 告 書

医療法人社団 片岡医院  
理事長 片岡 英樹 殿

私は、医療法人社団 片岡医院の令和4会計年度（令和4年8月1日から令和5年7月31日まで）の業務及び財産の状況等について監査を行いました。その結果につき、以下のとおり報告いたします。

### 監査の方法の概要

私は、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、本部及び主要な施設において業務及び財産の状況を調査し、事業報告を求めました。また、事業報告書並びに会計帳簿等の調査を行い、計算書類、すなわち財産目録、貸借対照表及び損益計算書の監査を実施しました。

### 記

### 監査結果

- (1) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、上記の計算書類の記載と合致しているものと認めます。
- (3) 計算書類は、法令及び定款に従い、損益及び財産の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

令和5年9月20日

医療法人社団 片岡医院

監事 前澤 裕

（注1）監査人が複数の場合には、「私たち」とする。

（注2）関係事業者との取引がある医療法人については、「財産目録、貸借対照表、損益計算書及び関係事業者との取引の内容に関する報告書」とし、社会医療法人債を発行する医療法人については、「財産目録、貸借対照表、損益計算書、純資産変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表」とする。